



俳諧御傘

奈保津常後每秋

伊地知文庫
文庫20
334
2



福福の傘

伊地知氏書冊

无礙菴

和

ふしこり

呼子馬

古今の人事は
し傳文を承り人

をむじさやをの事なりと

を代連欽神と創らば

小の御傍りの御文を承り

西縁を承り承りと云はる

うたひのうたを承り承り

今しきまの御承り承り

神と承り承り承り承り

宗承り承り承り承り

死を承り承り承り承り

し獨り承り承り承り承り

ふらふらとあらわのり
と和文の乃^はつとら
きよもあせりあふり
の^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^は
と^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^は
子道^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^は
も^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^は
世^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^は
と^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^はの^は
句あつていふなり

代

君の代を新代を能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

と申すは新代は能代

乃世といはば世の初めありとも
うらよまはば世の末なりとも
漸次うらよまはば世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも

よこして人

同由但丁は世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも
世の初めありとも
世の末なりとも

ぬをさうしう新武乃ちと時
かものなり衆のと教より
よるくも迷懐し人痛し
教よしじ時迷懐の世乃字
乃教者んあよよそひさ
よじ時迷懐乃世の内成
る一あさよよ不許しとそ
言世をさそ人し世とそ
人も回一事らるに衆の
あよ又字のれしとそ迷懐
乃と何さ世よあちと時り
よのさしはされはむ何の
あさるれしはらわらん
但ちをさ時うしあらぬし
連よも面汁と時いさうし
あさるし時をささうし
あさるし時よもひちの准
しとせ句去とそあむれと
も教よ續奉のいさ時り
世うぬと時いよとそ人
云時し時を時さう人さし

よつひ乃とそら平と

二十年軍の自とあこ又年
乃字をく録としころら
よ時ちと時とよよ
字の二句去と連よつひ

よつひふ
但句録よ

しと

秋さじ
秋さじ
ふ新よとそらん

世のさびやうき

道

あつたうきとせよ

おちる物あつたりしりしうき世
をさして羨りし月時の白
神らうきと極物よるる今

すけりしものさやせしもの
あつた極物よるる世生への
うき世をさして極物あつたり

右のよ二句よきしきよ極物よ
き世生世の生乃字は
極く一極二句の極とせり

後生は生は生は生は生は
三極とせりあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの
あつたりしものあつたりしもの

とてしやとあしき世間を
難くとも極端に二句を
百韻よき世間ともき世生を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を

青

又河がよあしき世間を
難くとも極端に二句を

きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を

青乃

初初しり又又と
乃事と極端しり

あらしき世間を
難くとも極端に二句を
百韻よき世間ともき世生を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を
きつる極端のつひく二句を
其名一き世生き世生を
色よつひく今一ひく二句を
色よつひく今一ひく二句を

横川

あきまわし

齡

年の字他数の七十年

紙をきこし紙物乃不

乃名通生の勢く

年久未嘗

一月より

骨に

くは感

乃字を二句

ち乃字よ年の文字

とつんく

乃字よ

古人の

くは

るもの

十

り

つきのぬく好くの人よあ
子あ連字乃懐奥ふるくに
四十とせいとせあといふ
よ四十年あ十年と去あゆ
とるあぬく人あ数乃時を
よとらいつらとらあ時よ年
乃字をそあ物とぬぬく
年の字をま書かし僻刺
とらあふ木村ゆしとらんえ
ゆりえれえとそとせあり
いとあせあゆりあといふ時
いと年のをまをいりまよと
あいつら乃阿公書人ああ文
いと誰も今あつくあとい
いと建え家とらんといわ人
乃あとい山乃軍あ十といよ
あといあといりあ文ああ
字といぬとい人あ八十とい
あといあとい年といあとい
あ乃字あ八十といあとい
あ年いあ乃字といあとい
はといあとい河といあとい
甲といあとい人あ甲の文字に
ありあといあとい人あ十乃
文字よあ家といあといあとい
あ乃字をあといあといあとい
ゆといりとい人あといあとい
あといあといあといあとい
あといあといあといあとい
あといあといあといあとい
あといあといあといあとい
あといあといあといあとい

あるれゆりもい古今若居下
三十一の乃文をなこりり
わゆる一ととととととととと
ありととととととととととと
あつるまゝまよとととととと
せとととととととととととと
とととととととととととと
ち乃とととととととととと
名目とととととととととと
乃時とととととととととと
ゆくとととととととととと
ちとととととととととと
ととととととととととと
かよとととととととととと
外の事ととととととととと
の事とととととととととと
ましとととととととととと
ととととととととととと
改ととととととととととと
まてとととととととととと
結句の事とととととととと
く月今ととととととととと
よととととととととととと
文字とととととととととと
之ととととととととととと
ととととととととととと
亦不及ととととととととと
ととととととととととと

とあるは乃紀とあるもの

紀と次と 二つあり

うし腔 北山歌吉野の奥
も回す

紀乃明小 そんまわらる付白
牛馬之嚼あらも

回す

紀乃約月 夕阿ふりも紀
ふりもあつ次

紀乃的り 月の後子句紀
よふも人なれと

回すところの紀と付くは

紀乃つら あつ紀つら
もつ又紀え

この時らこの乃乃讀屋

つら紀乃よつらあもつらと

字をまら紀乃一付まらつら

まらつらあつらあつらとつら

連つらあつら二あり紀乃よ

二乃外紀乃とあつらあつら

あつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつら

吉野の忌極

人倫

よつひよ

む二句極地句神
うらみはなかりき

本なるのむよらぬもくち
くすよつひよ玉乃を命
あつしきうらみ

よ

あつしきうらみ
二意よ一ととま

よ

あつしきうらみ
あつしきうらみのめ

あつしきうらみ

下知く二句極

よ

あつしきうらみの勢

あつしきうらみ

吉田の終り

四月中れり

節

節 祓祓友十二月終り
あつしきうらみ

あつしきうらみの命極とらふも

あつしきうらみの命極とらふも

あつしきうらみの命極とらふも

あつしきうらみの命極とらふも

あつしきうらみの命極とらふも

あ

新月の連袂今くくつ福

あつしきうらみの命極とらふも

あつしきうらみの命極とらふも

あつしきうらみ

たらし

橋

橋より一なること乃るまよも

花乃字のまよも一可きこと

次花橋と云ふ橋と云けり

もよも花乃字のまよも

よ花乃字のまよも

一のまよも乃るまよも

花橋と云ふ時一花乃字の

二乃橋と云ふ一物も九種

相教と云ふ一物も橋と云ふ

もよも橋と云ふ一物も

ゆくと云ふ一物も

花乃字のまよも

おひ人よ花乃の字も

花乃字のまよも

花乃字のまよも

花乃字のまよも

花乃字のまよも

花乃字のまよも

花乃字のまよも

花乃字のまよも

花乃字のまよも

え橋乃亦よ橋皮をともり
況われも離るる二句より
業橋の名乃陳皮橋皮根
穀根実も皮は木植物よと
るう寸も亦もともる業
橋乃名よ形りくも橋乃木
されとも皮はよ及まのき
養るう寸も同も橋皮一程
の橋乃皮も形りくも木と
句乃同成る

橋乃字二 離るる二句より

讀くも二句乃内しるるこ
とる橋乃と去た二句の
乃云橋の字よ移り一也と
物界の字も二句の内し

祇しは皮のぬるもさるあへ
ともやと皮乃字よりひの
もり橋乃字の二句の内し
さるもも橋とつた字も
一もさるうもつたよと移り
續も亦句よさるうも
傳橋乃字よりひのけぬこの
もひの字も皮の字も
けくももさるうも橋乃
とるもも二句乃内しるる
ひも亦も寸也三橋乃字は
世故世も橋とつた字も
ひもさる寸とつた字も
同じ橋乃字も八句の内し
もさるうも寸も亦の

西よせさうし 孫乃白の三句ま

玉乃結

命の久詞をれと連

懐よる心し 離よる意あうぬ

玉のをねをう今一ありね

結よるの結をかめくつふ

玉乃結又たまよわあさる

玉のをしうわさし 續らる

女乃んし又玉れを折しうか

糸折をかめく云又女のう

はむく結を玉のをとらあ

としありもあひ連懐し

わく次命よもあうさる解

は内を一玉乃をささく 離

乃事し玉乃結とら詞は行

をまきし海し玉乃をさ

命とら用し物よさる 次

と結よ清くも同ああ

後よ量よ福縁あ

とらふ句命と玉乃をさよ

る一面を結しあ乃字と

の乃ららうしと 續ゆ人なり

命あうぬ玉乃結よあけ

とら結しうし玉乃結の

玉らあ乃結とらあさるれし

と海しあ魂配し一面と結

し玉乃乃玉しうの二句ま

又乃ららうぬ玉乃をさし

とら結しうの二句ま

ねとまのりうけうのしる

玉の字
は月心と新式一

産田白物乃又多し安よ玉
と云は或い新式乃玉或い
干珠透珠お乃玉の玉れ
るは玉物乃玉と云は或の玉
源乃玉あゝ事この玉も新
産次乃玉と云玉松玉柳
玉柱乃玉の類と云は或の玉
し御傳乃玉珠玉金玉と云
玉珠と云く新式よゝんく
物乃あわれ乃白の玉と云
ゆへと云は物よあゝ玉の
年乃玉にわゝはあゝと云
は玉物乃玉と云は或の玉

あゝ玉と云は或の玉と云は
てうくねよ年の物御よ
と云は玉物乃玉と云は或
はうと云は或の玉と云は
は又年乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉
は玉物乃玉と云は或の玉

ニのちとあ玉のをしりんし
玉うし三句集玉舟玉石志
とく海よりみ玉乃字まとら
てまふれきたまうのりら
るれをさけくのれと玉の字
うし三句集玉の字の字
は玉の字いひはよあふく
らりあり命玉玉の字
まうし玉の字の字
しりらありあり
まうし命玉の字
巻物さくひはけり海をま
まきも八鹿も大乃玉しりひの
玉の字に散珠乃まきあま
の字に

玉のをし柳しと鹿長良大乃
玉し又右のありありのり
玉乃をよりり清くを
まうし一のらひくまうれし
西へありしれ新ても命の
玉乃をまへまへみあつて
るれし玉の字いひはけり
人あま命玉の字いひはけり
ましと女れるのまへみあつて
まうしあ人あま玉の字の字
飲よれをさくひはけり
の玉のをし玉乃字まとら
よあま命玉の字いひはけり
玉の字いひはけり
玉の字いひはけり

一 海なる珠玉に二句為人と
 三句神よまわく人の玉乃四
 もも歌なり一を座をさりく
 人終る吟味ある人一玉神
 玉依姫玉藻女をまづれ人の
 名座長美玉を玉より色
 おのまの玉し玉人座長美
 玉し玉ゆる珍珠とうま
 海しゆの玉を座よりくま玉と
 いしゆの玉を座しよ乃玉よ
 七句ま玉を乃舟にたりしゆ
 本がさるる時くもくも
 くす玉ほるることつたまを
 玉よりしゆあもも玉乃玉
 乃月之海ありしゆ玉藍玉こ
 玉乃玉

田乃字 君如よ二句之田を
 ろり時ろり地く

を座座をされを秋よさるこ
 極種よ二句し門回へ君如
 よ三句し門君如の田を番代
 田田島乃極ハ君如よ二句
 ろり

田の字 人の字極乃字
 みのこもろこ

そり海麻をぬるゝの畑入
し皆穂穂よ二句きく新し
とぬ田よ麻のさゝぬ穂を
ま家なる糸を結も穂
穂よのさゝ次田よくあせま
とんけへくす目さよ成
田乃まよ高然と海又高
稲畔田畑とさ二句き
しるの穂よ田乃まきとす
田を踏しとささる次位高
乃字然とささる田のさ
左けし対句いさる家へ
かちとぬるのさ穂よ
とぬしとささるのさ
田乃ま高外の田をくさ
後田採とら文と書たり

田乃ま

生田田と後田乃牡
木乃敷田乃まよ三

句さわと穂よ又対さ
かちとぬるのさ穂よ
穂田乃まよ又句まへ

ぬのじれ

田乃南の穂
乃穂とぬはれ

とも田のまよ又句ま
と田おの名も田のまの
う又句まの穂さうと句
るさぬの田の連さよ七句
るはし穂さよ又句ま

ま田よ

まのま二句穂と
まよのささる穂と

とも対さともささる

まゝにわをきひふ人終乃為
あやねり終回ももたれん
ちの字乃あ為らるるも
あゝあ書よらんあ書よそ
ちとらあよらんああはん
あゝ書あらんあああねは
人あこの字あああああ
あゝああああああああ
とあらんああああああ
あゝああああああああ

種為

種乃終のあゝあああ

あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ

竹

あゝああああああああ

あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ

竹

あゝああああああああ

あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ

竹の宮

あゝああああああああ

あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ
あゝああああああああ

竹乃林

竹林結念ハ夫也

乃乃乃乃乃乃乃乃乃

賢く若く竹林ももりも

たよ竹のまををれし竹よ

又句を

竹田乃里竹川

連よ又句

とあれし

那よハ三句を極極よ極り

但依る極て極極よもるり

又句極へ三句

竹美よ

竹のむと戸竹

これよ竹の美よ

余は竹の竹の美よ又句極

余は極よのうあふ竹極ハ

極竹よをささきしゆしと

あれし極極

竹よ

系竹簡ハ又句を

極極よあふは極竹

とふ極極乃竹のり句極

あふ美外のと

竹の美

ちくと移入ふあふ

も竹よ又句を

唯れ

たの美より紙を

始ふ物よハ極極

初武の類をとお入しと

まは海よのり時があふ

さく次極よまは

うら紙よあふ

呵ふと何くはら

とも一句隔くは極極

小わ海よのり時

まはるあふは

物よしの不始はくし新式よりお
まはれ終くかかると人

あそく様よ

誰の字二句と
無き夜よんこ

あつちよ又らゆりまはつあそ
くれらふい美譽人念終終

かめらうしは時をさる山家
あつちよのこ誰とらふあそ

こまあよあましこまあし時を
はるあそこのあつちよあそ

あつちよあそをま誰とらふあそ
二句あつちよ終をはす理とら

あつちよあそあつちよあつちよ
まよ二句あつちよ何とあそ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ
あつちよあつちよあつちよあつちよ

ぬもろくじらうく使まかち
 しくは洞を吟味されし物
 とる意ののせしめらるる
 尸もぬらうく使まかち
 と同句を道中くともわれ物
 乃義理ゆくもわれ物か
 是く好義可くもく使まかち
 ぬらうまのの神をたたり
 とくまの海くあまら
 しくは付句とも種かれ物と
 けらうく知らるる人も物
 とのくは物くあまら
 同句も物く使まかち
 といひてあらう物くあまら
 子いひてあまら
 けらうく使まかち

けらうく使まかち
 小お世を媽人くあまら
 かしくは使まかち
 とも文を不致離くあまら
 きしくはぬと老女のまら
 死あくも使まかち
 ても續物あくも物絶ら
 とくあまら
 乃くは年く使まかち
 久しくともぬ宿里を物ら
 とくあまら
 乃あくも使まかち
 ねおはくもあまら
 ぬらうあまら
 けらうく使まかち
 とくあまら

玉系 詞二句まことわきま

まこと離よの対もくは

くし寸形式ももて種赤紙

物乃高よ玉系よ詞後乃種

不様定こゆわ

雲取 多由よあし寸粟此取

あし小物を種

新 新のなまもゆへよま

阿も二句焼のなまよの面を

きくひをくよあ句を

非種物能山敷もま物よ

新のよらしくまあ句場を

乃字の火中も鳴るひして

流るるぬももあまの火

まあをくもあ句可種よ一句

あがをくもくもひも又

句を種をくももあ句

新よもあもあ句とあ

新のつれもあ始の流れ

とて面を種もあ流を種

焼書ると新よ流句を

三句まあもあ句を

あし火 新はあし寸粟乃

火よもあもあ句を

今もあ新なるもあ句を

くもあもあ句を

もいかにあつていかにいかに
りあつたよあつたよあつた

立田 たてのり 新しき新しき
名はよあつたよあつた

あつたよあつたよあつたよあつた
乃得らわあつたよあつたよあつた
さやあつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
下のあつたよあつたよあつたよあつた
又万葉よあつたよあつたよあつた
されよあつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた

新 あらた あつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた

あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた

新 あらた あつたよあつたよあつた
あつたよあつたよあつたよあつた

氏乃海

后和子不為三

新

非生歎子句よまへ一春
袖るれし歎よ讀くさふ

二いわらききあまうけ排ふ

世倍乃むるをきよ月よた

けらるるれし物生えとと

一とへし今一わら新よ虎

おわり新新新王新女竜

虎天新竜以新首おの歌

と新よよらんくも新乃命

よとへし今新よ讀くも

へまのり新腦新膝新骨

新樹言新竜新女新竜

眼肉大子の新新新骨車

又讀よらんくもひよと

乃ら新角乃あら人の名

のおとあおお名辰乃帝

新乃口るとの門いんし

新とん新新よらんくも

一かあらしし讀よらんくも

あつともんくもととよし

くもとあひの二座二句と

今新はみ細まうあ迎

もわらさる也但新をいあ

同云子句よまへあ一句あ

新を新よらんくも百約

一とあるといあ何言子句

あし一句ま子細あのは

物と連歎く和歎をこ

くもしとらわあくあ

得ず通されしつゝ此の
を好くぬも耳よらるる女
鬼虎きこふく依て白豹はくひょうより
まぬこゝの危きふまの連
袂たもとしつら事あそむに多
滞とどりしつゝこゝろく
まはるるあそむるわらう
成る人あつんきんきん体ていを
志すこぼれをさすに
乃るれし連袂たもとよき
といふ悲かなしかりし一
死しもふふの理ことあつ
もわらわたりく人乃
おろりしつゝこゝろ
縁ゆかりしおろしつゝ
人あつぬるたされし
とらふこゝの味あじを
ぬるぬる人し合あひ
さ次

七夕 牽牛織女あそむ
月日二句あそむ

七夕 暫かに二句あそむ
乃川流あそむを年此後

七夕 重なるも天象てんさうし二句
くつゝわセ七夕しちせきよ
ぬこ紅葉もみぢ橋はし乃橋はし於系
し歌うたをなほ

七夕 連ふ二句あそむ
七夕しちせきよ後のちよ
まへしあそむ二つあそむ
し牛うしのあそむ

しやうめんくし

セツの衣

長敷のりわすく
くも衣乃字よ
みゆま

田蓑の羽

山敷のあし次
也之田よの又を去

くこのよの面を地衣敷り
も濃相おも不端

ゆき

排よのわり一八名は
ふん

音

三のわりは角まの八名は
わ

る雪山

山敷のあし次
ふれし八名は

とこの雪を雪まの雪まの雪
高雪のりわすく

わすくまの雪まの雪まの雪
雪まの雪まの雪まの雪

わすくまの雪まの雪まの雪
雪まの雪まの雪まの雪

る根

根のりわすく
排よのわり一八名は

連よのわり一八名は
排よのわり一八名は

る根のりわすく
排よのわり一八名は

根のりわすく
排よのわり一八名は

る根のりわすく
排よのわり一八名は

る根のりわすく
排よのわり一八名は

る根のりわすく
排よのわり一八名は

あゝむを憐むに地よまの
とつ 相乃をこらへらわう
... ぎろや音云夢いし
... 下よあら山乃祿
... ころころいふるにあらはし
夢いし ... 夢あひとも

喰人たれら指留生乃祿を
をさるま乃指よゆるゆり
たらり憐に指平山乃祿
とやと知らるあやうり付
えれ ... 一物 ... 見え
よ 又と ... ころころいふる

とくぬ祿といふと山乃電
を祿といふとおもふかき付
らふ文字を平らとせとれ
世に ... 人 ... 由い

一 ... 山乃電 ... 二二
年 ... 入 ... 一 ... 由

たふ ... 人 ... へ ... へ
さ ... 分 ... へ ... へ
ゆ ... へ ... へ ... へ
多 ... へ ... へ ... へ
は ... へ ... へ ... へ
ゆ ... へ ... へ ... へ

山歌之ふゆい
ちりこ
たふ ... へ ... へ ... へ

あゝ ... へ ... へ ... へ
ゆ ... へ ... へ ... へ
し ... へ ... へ ... へ
き ... へ ... へ ... へ

續りしあるは山歌しは古今
序よ後なるはのまきん
おま乃屋しやうよおあおと
あわ後乃乃屋よまおれし
橋列る後乃のたしあうか
懐只る後乃浦よあさ
さうにわく浦の字波の字
あとお返る白紙るれこ
あしうわよおわく山歌
あしうあ返乃乃紙るう
あしう後乃のまはうわ
句と古今の序と後乃
し山歌よあしうま
お返るうく句紙よま
しうくう返るま

音れ戸

戸の音よはあを
戸の音よはあを

非非非但後乃紙るあ
二句ま

後

二句場へ袖の
まはる袖よ紙る

はまはる袖はへ

あへおたえ

付くもあ若
後乃まはる

こえをうりこ後乃まはる
へまはる

あよ

あはる二句場へ

あはるあまはるあまはる
あはるあまはるあまはる
あはるあまはるあまはる
あはるあまはるあまはる

連の文字書乃ほあてゝもすしよ
息を付書きたるよしわくの
るは押あてらるるなりわ
しむまゝのあてずる終し
那へちのさすよさたしつ
と句をさへあてしつ二句を
しあてしつしつあてあて
あてし行ひのさす

たのま

二のまはあまの
たのまのま

もはひはあまのまはひあてのま
らわを二句をさすらわのま
まはひはあまのまはひあてのま
ひはあまのまはひあてのま
まはひはあまのまはひあてのま
まはひはあまのまはひあてのま
まはひはあまのまはひあてのま
まはひはあまのまはひあてのま

あま

連は二のち那まの
まあわのまはひあてのま

つひのまはあまのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま

あまのまはひあてのまはひあてのま
あまのまはひあてのまはひあてのま

字も同し便乃字したよ
りい多わけに詞をたしてよ
つと乃内よ一句もさし教よ
續阿のひん乃字よ一のさう
い應う先よ同し

あつさ

本とあしそののさ

本よわが勢とよめつとねと

乃字を乃らあ乃本もあつさぬ

と續うもあまを勢を歌服

定家も便字を顯海密

翻よ書給ふらぬくこそ

ゆきあゆみのそよあちまわく

よめりびをまとのあそびあ

とせしあくとらんくあめり

ゆき乃えらりあつさぬ

よるさくらあつさぬのし連綿

たよ一屋よ一句あつさぬ

をらんくあつさぬ

又まへしあつさぬ

乃字あつさぬ

た乃せしあつさぬ

二三句あつさぬ

あつさぬ

能得法傘

終

例^まるぬは例^まおたふ 乃^ま能^ま

もも後よむ心洞あゝ連
まもも海に傳津まもも
連よ一あまもも遠物不例
あゝももいゝく二まもも
痛れまももおはるもも西とて
痛れ傷まもも中風まもも病
乃名よもも白まもも

まもも
白まもも
まもも
まもも
まもも

礼レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

礼ヲ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

礼ヲ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

又凡ソ其レノ字ナシク

礼レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

禮レニ多ク入レシムル事ナシク一ニ其レ

乃チ其レノ字ナシク

しんぼん

あ

あはれはしほひまうらむとまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

あはれまはよきまはよきまは
あはれまはよきまはよきまは

まへへしやくの吟りし結し二
句まへへしやくの續くも同
之句乃のまへ連よ面を結入の
郷まへ七句まへへしやくの
と結入よ續くも同
まへ 結入よ二句
まへへしやくの作も結入よ
わへし連まへへしやく二句わ
まへへし結入よ系完結
後まへへしやくの結入よ
まへへしやくの結入よ
まへへしやくの結入よ

神紋 結入よまへへしやくの
結入よまへへしやくの

結入よ神乃の結入よ
まへへしやくの

神乃の 結入よまへへしやくの
結入よまへへしやくの

結入よ神乃の結入よ
結入よ神乃の結入よ
結入よ神乃の結入よ
結入よ神乃の結入よ

神乃の 結入よまへへしやくの
結入よまへへしやくの

結入よ神乃の結入よ
結入よ神乃の結入よ
結入よ神乃の結入よ

神乃の 結入よまへへしやくの
結入よまへへしやくの

ゆり物よ二面に施し海心な
ぬく聖山尺取神よとく
白神よとく海神よ二面海の
字よ二面とくも不若施し

神ゆり水 二面とく
よ二面とく

神と社 二面とく

仙^{せん} 山敷と社と社人と
も成代社をとり山

敷よあり成社とハ我本よ
ありありと社とありありと
ありありと社とありありと
ありありと社とありありと
ありありと社とありありと

雪^{ゆき} 朝のむ世の時と
ふそむたり

連^{れん} 二ありと社とハ三
あり

田をとり社と社と
社と社と二面と社と

よあり成山田と社と社と
ありありと社と社と

ありありと社と社と
ありありと社と社と

ありありと社と社と
ありありと社と社と

ありありと社と社と
ありありと社と社と

舞へく續あひし之又傍官
乃傍物といふ名あり乃申さる
付くもく傍ししうすた
お家の傍物よよそ人さゆ田
をま傍居うよまこそあり
白るうもく傍りや海しとの傍
物といふ人さる

その字

てふともその乃字
濁り時二句始し
もがてし一の執濁り時を
二句まじ

そふまのり

此二句まじ

後物

連よ三句まじれし離よ
ハ二句まじり松の煙

竹の煙ののきつり
連よ後物とてつ離を始し
差おあまそとつ左離り
連よ三句の物をハ二句始
およ二句まじり三句まじり
もりのあまそりおまそ
そひま物もくろち又後物
も始居う同あり

注

躑躅

本に連歌よ一程
乃物さけし離物よ

ハ二句まじり一但今一句を
初を入くしてちやうと
もへしそあまははつと
ま又まへしはつと初を
はつとあまを

中略より名をれどもわ
きくものしれ名よ成あれ
し去のまよよるく次こ
りよよひうきくく友の句よ
来るりてれくもてささらよ
くよいれをくあるくしは
く光極極よこくく次花乃
定よの二句まこくひくま
名るれく衣敷よ成こ

石

連訣よはくくともあつ
はひか二云鶴よとく後漢く
心三句わをくくくまへ
法名の巢ハ去あ名の巢
ハ友るれと鶴の巢ハ難し
わらハをくくく思成ハつ
くいの執事或ハ人志名の
石乃まもも三句の肉なり
あ又らのけりけりるへ
魚木乃あ志とのを越
後まもも入く石乃よるて
も乃ももも三句の門な
あへ

石乃林

石乃林 石乃林よもあ
い法成成方一産
一向かりよあし位目む乃
双林ちの句林あくく石乃
乃林とわをくへあ又ま
あまハ山敷こく下し天
乃石乃の林くく林乃句林
ハ山敷くも極極くもく
あへく新式目よあま

らうのうゑ乃下よ海に寄つ
と云ふよふ形を去るに
生敷よわら次林とつ字
よも形を去へしと云ふ

月と名
あふ去し敷よ濃
てもたさし他月

次乃月よ三句去へし

月次の月よ
あ月又月
ははち又月

兼月次乃月おね月おらり
形かよわら次天あよハ打
越を始へたし云々物云次
年月よ三句明付くはまへ
あしとらん既わらあ句始と
之わ丸云は次月とつらハ
月次乃月といふことなり

月次乃月の名多何よあし
形か月をいし何は物をら
又云先ああし月次の月
よ三句明六句とつらる一切
あしとらん今あつまふ
成らり月次乃月よ三句明
又あるはし打越をハ始し
月星かうり紙をハきつら
付くはららりし守る所
ハ月乃名白れしうり紙を
も始ハ付るもあつ使
二句去よ三句去へし

月次乃月よ
よハ續乃林

あつ使あとの月名
あつ使あとの月名
あつ使あとの月名
あつ使あとの月名

年月二日ありふ八始より
又又月毎八月乃字ありき
日乃字よりわも不始

月よ

流生衣更意乃教付
ても不昔月よ月次
乃月の字連よ又句あり
誰よハ三句まで

月小日次の日

日よ月次付
折紙と始末し

月日星

出さる相三句誰
ハ三句は始末

月乃ある月乃わ

夜の月
のくち

不可^流物毛形武の文を
形武の可^多なる相乃うり
乃ある月乃わ

乃ある月乃わ

毛ありうい月乃わある
くわよあるのまあるうの流物

あわ^くと毛を加^うあ
よ付^く知ぬ始ありとも同し

る^こ交^れのありあり
るれ^い月乃教のありあり

あ^とい^まありあり
あ^とい^まありあり

あ^とい^まありあり
あ^とい^まありあり

あ^とい^まありあり
あ^とい^まありあり

あ^とい^まありあり
あ^とい^まありあり

あ^とい^まありあり
あ^とい^まありあり

海とのちのちさういふは海はよ
不夜夜海物と云ふは海に海
物るれを月乃をわけるなり
りわけるを海はさうな海乃白
るれを海物よ成し月のちを
さうわけるなり

月乃海 物さうり花乃ま
れさう
とく海物よさうと

月の月 物さうり月乃お
海乃月さる月のちさる月
物お海物さうよわさう

月の宿 物さうり月乃宿
乃る月乃宿なり

月とあり 物さうり月乃
備さうり

月乃友 人備し地を神り
さうり月乃を友人
備よあさう

月を 玉の鬼とも玉鬼を
備よあさう地と海と
乃月と

月歌と云ふは月乃を
月乃 物さうり月乃
とへさうり月乃もさうり
とにさうり月乃さうり
不さうり月乃さうり
を備さうり月乃さうり

まへ

月夜

源平白雲

てあはれ月乃ちちちと
 塩乃塩干と何とみられ
 月の影 聖徳太子月影
 つまひしこもあはれ月
 と又月影つるはてしなく
 つまひしこもあはれ月
 出ぬし連枝とみし何れよ
 面を照しよとの影の光
 ねを照しよ人の影の光
 の面を照へし又月影と
 舞のうらたを又月影と
 ろしとつるの影の光と
 月影

月夜

源平白雲

つるはれとみられよるり
 その影乃月を照る人影の光
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり

月の花

源平白雲

つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり
 つるはれとみられよるり

字よふ三句こ乃字よ二句
 書あとりあ字をうけ在不正
 字取書あよ婦へうう次は書
 物のうをほすうらふは戸
 本も本のうううの連乃次
 本梅よ記をうらふれとあふ
 ううあふよ書あとりあ字を
 ううあれし二句まきこ又氣
 と云字ををもうけし氣とあ
 字よふも二句まきこ梅本つまむ
 本とりあ書とをうらふ書あつ記
 戸本とりあ書とをほまじと云
 詞のうの面をほへきうり但
 ひ道程はまきうううりや
 記うじんきう一ねあうく

一すし乃字よふ二句こ

高田記

秋の連よ一あまき
 灘よ今一まき

はこは乃よまき物あれと云
 梅よまきうの紅葉乃んきりな
 ぶあきあまきと梅山乃久
 紅葉あまきう乃よ付ゆら
 依乃梅問を成るうら
 はここの紅葉の志あまきうら
 友乃乃まきうら付くも不書
 ひ後むあまきうら乃本は
 紅葉う梅を付くもあまき
 くゆまきあまきうら乃
 名をうらお紅葉乃付合り
 せんさうらうらうらうら
 ぬらうらま乃花のうら

梅く春の歌をなすはし
るれも紅葉よはるははく書
乃又心かんもさうり
はとさうり句年しこ日意
成りしとく句梅よさる人
さしこ

梅く春の歌をなすはし
乃又心かんもさうり

はく春の歌をなすはし
と梅を梅とこじさの字入
ても梅乃字あわれし梅く又
梅乃字あつても書ぬの文
字あつてもさくあつても
之句に余のふり梅よさる人

梅く春の歌をなすはし
乃又心かんもさうり

梅く春の歌をなすはし
乃又心かんもさうり

梅く春の歌をなすはし
乃又心かんもさうり

梅く春の歌をなすはし
乃又心かんもさうり

梅く春の歌をなすはし
乃又心かんもさうり

はるかにいふ はるかにのさかしく

ちかこ回あ

釣 あま あまはくくくくくくく

尾の初 あま あまの初

翅 あま あまの翅

常の字 あま あまの常

乃 あま あまの乃

船 あま あまの船

乃 あま あまの乃

船 あま あまの船

乃 あま あまの乃

船 あま あまの船

乃 あま あまの乃

船 あま あまの船

乃 あま あまの乃

はまの字 瀬よハニわかへ

これをもつをいさうし編

主親 親 祿 道 祿 祿

はまの字 瀬よハニわかへ

これをもつをいさうし編

はまの字 瀬よハニわかへ

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

はまの字 瀬よハニわかへ

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

はまの字 瀬よハニわかへ

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

これをもつをいさうし編

人倫をのり居りし後
一息に二離のハルを久々物
役と者るし教よよるんこと
一あつと昔法法うひ習ひ
ひるとはは乃命よりをの字より
いすく不^ズ変^ズも亦い使三句
乃命成るし法うひの字よ
三句始へしは字を字よ
面ととまへ衆次終くかあを
列るへし

書^{つま}あ^ひよ^ひ妹 ねり^ひわ^りな^ま家
始へし法まとも急こころ
乃法戸朝の書あるとよいつ
てもくろし^く深

法事し^て法^のあ^らは^し 連^は二^句面

離のハ七句まへ衆をま^り
連の^く面を始^り終^し

法事^のあ^らは^し 連^は二^句あり
離のハ三句ま^り

その内二句い急る^る
法事^もあ^らは^し ^{とも}の^まま^を入^り
^{とも}終^面と

い^ふ初^もい^わは^しま^りあ^らは^し
吾乃^らま^り付^くも^らし^り
初と^らり^終面と^り終^し
法^のあ^らは^し ^あら^はし^る三^句ま^り

あ^らは^しも^不書^らま^りは^し終^し
と^まり^し終^し

ほて

連ふ二あり儼よ三あり
急と膝とよあり相し

之片よりし急し膝も不可
細らたませとわをう由へ
あしほくもは肉をほくは使
よりもらり人倫よありす

ほて海り

離よわをうて
三ありほくらく

とふ二をまき

月日とほふら相ハ

相ハ
依り

相あり月日の新えると相
あり月日るとの月次の月
日ハ相ありす

儼者

たりふ十二月晦の
相あり

一海り民を痛しゆへ
大と相り日月あり厄鬼を
ほくむ相乃らありの矢
とまけくあまはあふこ
と相り

相

国

一と相らこ相あり
二と相ら一相乃字ぬ
子の字を乃字より面を
相へた相ありあ七句を国
と相ありまらむ連り
面を相へも相り七句法

凡云ひさりあうあしめよゆり
福あふの福乃字そへいさも
ふへいさりあむよゆり
寸圍ち屋巻の二名こまこ
りじをきこりし部のまゆ
こく神乃字花しくまこ
も皆面をうむへ文次連よ
ともわき遊よまあま
ら越のあへゆへくす深
置るとく教よ禱くも園

二乃内也

神の
寝字

新式よ一屋田乃
物るれし遊遊よい

あんと教よよらんくくま
とへく福のくり寝獨福
係遊福とわ福と

りり福福の衆人るまの教
こまおよぬりこりし福の連
まよ面をきこりし遊遊
よいせよまこ園眠約いも七
白まこ人ん福るよ蝶も
のり福るいせ白まこ一又も
乃ぬりよ蝶のぬりまこ
面をきこりし遊遊よ
福るぬりも福るいあま
りり寸遊遊をくく二ま
ゆりし福も福るぬり
福るるる福をきこり
へふし寝乃字又乃あちり
思ふ福るとぬりこり
福るり福乃字の田乃あま
ゆりい表よあちり連寝

空た終ても此よ及さる
 中身し福もぬりよ外は有
 去とありうもうよありとて
 伏見るとまるとい場へう
 寸起まさむらも二白ま
 ありなまなまらく物乃まき
 ありるとりふ酒乃さ
 しろあつさのま母ら真さ
 めくるとりあ酒ちまもま
 預あるうらと一切の指合
 神うとあふりし一既来り
 福とへうと寸福さあよあ
 二白まを福さあ乃酒まの
 ぶんあまてい八白れ中ち
 さあるの福よまを物り
 われはまはらふはまはら
 餅餅まへうと寸まのま
 洞なるた目かなぬうあ
 らせし熱よあうと寸は洞
 かわたわくくまらせはね
 養よとらくくまらへはね
 一福もあめく洞まはら
 うと寸蝶乃ぬら福うはね
 おわくと寸まのぬらね
 ありまを福うも福うま
 非新か

三日

まへ正月初めの日記
 おわく小松をうらむ
 又高懸院の法阿と二月
 とあしとわら新式よ松よ
 三日お新と焼とまを
 心敬宗後八松よま日と付

御書付らとてふ後之御書
不覚敷くとて代書よみ日
を付て色原作りを新武の
以の書よ御書乃をくわ
ありおこし敬字後も子日
よ松平八幡けとくち新ま
子日と書くべき乃くまの
をよさくちわくしと見こ
ありてふ心もよふ松よみ
日よ松付合し御書と御書と
と申し子日とらふよ松と御書
し御書よ御書同しよ御書
ありの差あわさくちよ
新まら御書とくちよ御書
まてし連叙も今からくち
松よみ日と御書と御書と

く次子日よ松平御書と
るゆき子日ハ御書よ二句を
御書と御書と御書と御書よ
日ハ御書と御書と御書よ
今ハ御書院二月の子日と
人書あわさくち御書日記
りも二月よ子日御書と御書
書ハ正月よ御書と御書と御書
と御書と御書乃文よ御書と
るゆき御書と御書と御書と
御書と御書と御書と御書と
と御書と御書と御書と御書と
と御書と御書と御書と御書と

あしすのあまよふ月七り
翌福赤よ二月十八日地より三
月三の葛藤よ環年八月は
八月十八日九月十八日菊よ
重湯より紙も可なり次言
云思ふら同もしそれ云ふ
そら福盤の物あり松よりり
りよあもも子日乃ん生ま
りつて神まよましてその
えまよふりりも正月ちる
ふ百人のひよこはせりそ
まもあまよふらひし
茶とららわらふあちる
しんまのりす翌福赤よ
るやあしり二月十八日乃り
にんまのりりりりりりりり
地よま秋乃りりりりりり
りあしすまらりりりりり
之月乃り保しりりりりり
物と総しりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
付くも同もよりりりりり
とあやめは瑞年同あしり
も或の葛藤よ葛藤よ
やめ乃あまよふら八月十八日
瑞年よりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
和漢多んとあまのりりり
乃明見もりりりりりりり
も名月よりりりりりりり
りりりりりりりりりりり

よ御乃らうくくふふふふふ
 九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく
 九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく
 九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

九月のりき湯るくけりる
 へ白神よふくくあくくく
 るるくふふのふけふふふ
 るくくくくくくくくくく

指瘖腫乃指るゝの不通也
指指指あゝにむ乃をゝ山
乃法山の隠るゝの字二句
まゝゆゑに位句よゝわゝくぢ
乃字の字よの字もゆゑゝ
す下の字も同く隠るゝ
えゝの字も字類字をゆゑ
ゆゑもまゝゝゝ

根字

根指指のゝこのり
本乃下山りし山りけ
山くま連あまゝの類二句去
かわ天り下ゝゝこりれ指あ
りり月ありとたゝまゝ日
りけゝとふゝゝゝ又思
縁指の木の縁あゝ縁ふ
のりり根もゆゑ

糸

かろと

一課よ八回あゝるこ
こゝて別乃かろ
二今一ゝゝかろまゝとP八回
小ゝ内粘麻流毛と縁守
物ゝゝ内よゝゝゝ林よ
成ゝ指をまゝあゝ植物よ
二句ゝあ乃ゝるゝとゝ八回乃
かろゝとゝゝゝゝ乃濯
着るゝとゝけゝゝ白練よ
依てあゝと難ゝうりゝを
てゝかろゝとゝゝゝゝも
田乃ゝるゝとゝゝゝゝ
死乃校ゝとゝにけゝゝゝ
ゝと縁ゝとゝゝゝゝ

花乃らるこゝろのまをほく
るくく次田乃つまよふを松
葉をさくんとあられも松
葉をよとけつへく次るるこ
よらち乃らるる二句まこらり
になく二句しなる神一字
わきまあまこあむりり二句し
人志ましくいふまあよある
ぬ付句ららつ松之このま
ハ灘よ一産ふ句のれし同面
をゆきれも松之松之人の
名のま昂おの松又よ讀し
付くもらるる二句し
しつ子日子乃つまこ同ま
るれらる同まあまのほま
とあむりり二句し

歌よつり

又中よまへるわら

おとくまこよふ句の海り
よありく下句まの海
つまよらるる松連よ二句し
物なれし灘よ二句ま

あゝあ

二まよらるる八月よ
しつ松葉よあむら

あよしつ松葉よあり灘
よあゝあ二まよらるる
一松をまへる松と松よ
よらるる今一まよらるる
あ二乃亦の源と松よらる
時をらるるよも同松よ
まらるる松らるるあ二
句松をまへるらるる

とゆり物と定むる新式
乃心結縵し候乃ぬのガリ
若くは洞くりのの事しき候を
物名の神よりの事たすく
法取よらるるゆり物とかりり
めりし古歌やも秋をさる
あやまきかと漬又ぬ六神よ物
あかきふつとあきそを混
合乃道理よねぬりゆか
洞乃ぬと波物よわらぬ洞
乃時ぬの冬乃まよたよりぬ
よゆりものよゆくとんくり

浪乃時ぬ

ぬ乃るよ一ま冬
乃まよのる波物

よ打懸の痛く冬明ぬすき
てい可^い解^くて^い成^るの^こ
〜[〜]神^の糸^をの^り洞^ぬ
〜[〜]今^一浪^乃洞^ぬ〜[〜]今^一ま
連^よの^浪乃^ぬ〜[〜]洞^ぬ〜[〜]
一^座よ^一わ^り紐^よの^二あ^らり
あ^く〜[〜]か^りす

浪よ

神乃月ま〜二句嫌
神よ年々神〜う

はる月ま〜[〜]移^るゆ^き

洞乃すむ

ま〜[〜]洞^ぬ〜[〜]

浪門

非水門の事な
二^三浪^乃洞^ぬ〜[〜]ぬ^じ〜[〜]

い[〜]浪^乃洞^ぬ〜[〜]ぬ^じ〜[〜]
り[〜]あ^らり[〜]あ^らり[〜]あ^らり[〜]
あ[〜]〜[〜]洞^ぬ〜[〜]洞^ぬ〜[〜]
〜[〜]〜[〜]〜[〜]〜[〜]

と見らるるも家なるは
名乃洞川と曰わらるる
白くく次海川と作勢乃
名乃なる

洞とく 連よ七句御よは

又句さわり

源よ 名乃なるは不遠也
其も好くさくもれ

二句通し

流よ 名乃なるは三句
人乃流と流乃之のこ

生類乃なるは啼鳴をさく
又字を流なるはくさく
乃なる人乃なるはくさく
無しと名乃なるは二句わり

名乃よ 名乃なるは二句わり

他付句計と通るはくさく
乃なるは名乃たるはくさく
名乃なるは名乃たるはく
くもれと曰わ

名乃の好くよ 田中乃名乃

名乃なるは名乃たるはく

同く名乃たるは名乃たるはく

七句も名乃たるは名乃たるはく

名乃たるは名乃たるはく

名乃たるは名乃たるはく

名乃たるは名乃たるはく

名乃たるは名乃たるはく

わぬのこ海らこころ穿身懸金
 し新式よふくぬ美られん
 坊用とくへく使さくいにちち
 髪より髪とわひひふもま
 しとぬひよ二句まこもしく
 虫とく歎とく又も歌うそ
 つくともるくも髪よ二句ま
 の物ら二句まわ二句まの物
 の二句まこもるくと髪と
 のころめいあわくくくもま
 ころおくくくくもま
 田舎の声くくもまあう
 くもあくぬ物りれもまの
 鳴よとくくもまうま
 かせの端へまうくくもま
 とまこくもまうくくもま
 の味りくもまうくくもま
 かなるもるぬよまくくもま
 りまよまもまの月
 はまこくもまうくくもまの
 けくけくもまうくくもま
 りまもま髪ははまこくもま
 かなぬもまもまうくくもま
 くもまもまもまうくくもま
 かなぬもまもまうくくもま
 まくもまもまうくくもま
 かなぬもまもまうくくもま
 まくもまもまうくくもま

歌とよふまこくくもま
よ二 極物

白き新式目めひ併ひふ

あぐの増あぬ事とるり
このねるまけいのかかへけふ
のまあるあかへ極物と極
るけらまけい極物と極
ひし極あたる極物とあたる

ふあわ

ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ

名

名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ
名は花とよよ

サのり

サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ
サのりは花とよよ

ふあわ

ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ
ふあわは花とよよ

きつと成らり丸あつ
くもく物ともよくとけり
いふくも心あふ縁とも
二句きし解よあはれ乃言
ありしう物ふい無基と出
計ともふりまを乃言とく
るきよわい法いし色さ
二句えあ義こは雲彩成
うに魚おし越物乃石よ
かろう物あしうふ下に付
句物之折越不若く申結
をましし今文改るうす
ひがゆしあはれ海へこ

舞よこ句きの歌 あらし

あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし

雲小 あらしあらしあらしあらし

あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし
あらしあらしあらしあらし

舞のおのす

白おのす

付くも

いすとりわねまゝ又ねた

ちこそ終なるしすまゝとて子洞

もあつすともちひらひらあ

ねるとも付白場へふ路あり

とる二美あり人々もあつ

と日敷もあつ原もあつ

と母そのまふれ後とあつ

の付白場へふし鳥の格

わつす後と人々あつ

るゝゝいふ乃物とつ

よらゝゝいふ乃物とつ

いさゝゝいふ乃物とつ

あつすもあつすもあつすも

かりとるふよ二つわ

々々よもいふ乃物とつ

かりよゝゝいふ乃物とつ

いふ乃物とついふ乃物とつ

いふ乃物とついふ乃物とつ

とよ神の御託してなれぬ

付くもあつすもあつすも

あつすもあつすもあつすも

あつすもあつすもあつすも

あつすもあつすもあつすも

あつすもあつすもあつすも

あつすもあつすもあつすも

あつすもあつすもあつすも

かゝるものもよくある
一こころもいかに
おもしろいものか
おもしろいものか

あつたはらへ
かたし連は面を
七句まし句ま
一燈よ二句あり
か

あつたはらへ
あつたはらへ
あつたはらへ
あつたはらへ

あつたはらへ
あつたはらへ

あつたはらへ
あつたはらへ

あつたはらへ
あつたはらへ
あつたはらへ
あつたはらへ

あつたはらへ
あつたはらへ

あつたはらへ
あつたはらへ
あつたはらへ
あつたはらへ

るものありあはれいそと
種物乃んれいし多由よい成し
流人まのまのまのまのまの
いそあはれいそあはれいそ
物よまのまのまのまのまの

かゆりこ 神祇よあはれ連
よ二句し離よいれ

とくらのと勢よ續くたり一
まへ一ま指の名よ雷^{かみかみ}轟
あはれあはれいそあはれいそよ
あはれ勢一候雷電よまよ
いれをまへ一あはれいそあはれ
しつゆらととあはれいそあはれ
まへくうあはれいそあはれいそ
まじしあはれいそあはれいそ
り候とまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
いそあはれいそあはれいそあはれ
あはれいそあはれいそあはれいそ

何字よ幾字 付句場之打
紐も場とく

夏と夏 八句き

夏月 まの月と回あはれ月
あはれあはれいそあはれいそあはれ

と空あはれいそあはれいそ
夏乃月とまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
三日月夏あはれあはれあはれ
て夏月とまのまのまのまの
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

句をきしうの句を二句
まこととて整ふつひくま
い二の句

友れ無と云ふ小短ふあらし

こころをきく人こころ

清 二今一りあるよまき

あり糸

中糸糸同か二糸
めくら乃糸をりあし

天一糸乃ほりし糸田の肉
名糸と糸紙こくく久の阿
乃糸糸

波乃為

糸の波地はゆま
糸の波

波枕

毎のうたよまき
それと人うの橋よまき

整ふ

波 三句をきしあ道し尾花
乃波教波糸あ道り

あらしと人うの波乃ま
よのまき

あらし

糸まとうくあらし
糸のまう二句ま

しほり糸林ハ双林とくけし
二句まきそれ糸まよまき

あらしと人うの波乃ま
よのまき

あらしと人うの波乃ま
よのまき

ともあふ二句端し

流きん 連は二あり御は二あり流

あはと致は流も二あり
は乃と若し流人流罪流持

はあしきしあふれまはと流
は流句あしきし二句は乃成

句は乃成乃成乃成乃成
連は二あり乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成
乃成乃成乃成乃成乃成

水も二あり乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

乃成

乃成乃成乃成乃成乃成

あゝあゝ今一うさじり
蝶女とわらわしるふ中
魚乃四二八漆方一ニと
ハ不事せらるる

蝶 人偏し中の字立はな
二句去し蝶乃一字あふ

あゝあゝ世の中あ中
まゝの意乃句の中さ
蝶と連ししをゆへし能
い面をこころし

あゝあゝ 蝶女とくし命下
二句始へしね

うへ始へし寸ありまの字
一三句去し迷懐よるる

あゝあゝ 蝶女とくし命下
二句始へしね

一切不事せらるる
と改めよらん今一うさじり

あゝあゝ今一うさじり
蝶女とわらわしるふ中

魚乃四二八漆方一ニと
ハ不事せらるる

蝶 人偏し中の字立はな
二句去し蝶乃一字あふ

あゝあゝ世の中あ中
まゝの意乃句の中さ

蝶と連ししをゆへし能
い面をこころし

あゝあゝ 蝶女とくし命下
二句始へしね

うへ始へし寸ありまの字
一三句去し迷懐よるる

るるすいしし時心通るる人
いしししよま二のまへしし
也よ世をなむるすよのちるし
願うるも留るれも同好よ
心はよちるるしねをうそ
一の心くまへしし約の心る
おまなむるしおこりしお
まへしし心くしし通るしお
まへしし又もまへししねわ虎
角いし通るし心はよしりる
去通るし心くまへしし差あふ
くくくつ

るるすいしし時心通るる人
いしししよま二のまへしし

ひく連よ面をまきしし
連よハ七句まへしし
連のしし面をまきしし
さ次

るるすいしし時心通るる人
いしししよま二のまへしし

るるすいしし時心通るる人
いしししよま二のまへしし

るるすいしし時心通るる人
いしししよま二のまへしし

るいものり まこと

祭の花 まこと

同竹糸の糸 十二月

糸糸の糸乃末よあり

元 礎 菴

